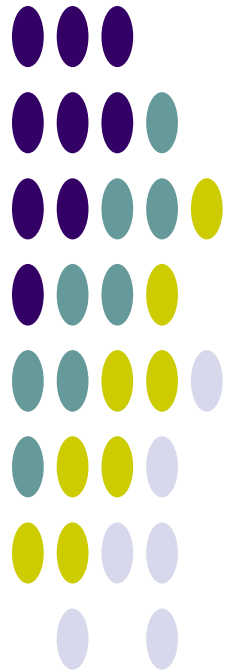


(一般社団法人)

isj 日本画像学会

2010年度表彰

学会賞 ● 北村孝司
功労賞 ● 平倉浩治、岡 建樹
論文賞 ● 西浦美都子
研究奨励賞 ● 由井悠基、西浦美都子
会長特賞 ● 長山智男
技術賞 ● 富士ゼロックス(株) / 大門克己、矢野敏行、
中沢 博、前川佳洋、杉崎 裕
技術賞 ● ブリヂストン(株) / 田沼逸夫、田村 一、
櫻井 良、大野信吾、増田善友
日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞 ● 面谷 信
日本画像学会コニカミノルタ研究賞 ● 浅井敏明



2011年6月6日(月)
きゅりあん



☆学会賞(第18回) 1件

北村孝司 (きたむら たかし) (千葉大学大学院工学研究科 教授)



受賞理由：電子写真技術、トナーディスプレイ技術、レーザを熱源とする感熱記録技術の開発をはじめとする広範なイメージング技術に関する学術研究

フタロシアニン顔料を絶縁性樹脂中に分散した電子写真感光体の物性研究を行い、電子受容性物質の添加により感度が向上する現象を見出し、その機構を明確にした。また、透明電極間に白色トナーおよび黒色トナーを封入したトナーディスプレイ方式電子ペーパーを提案した。複数のカラートナーの移動を電圧波形により制御することでカラー表示が可能であることを実証した。さらに、半導体レーザを照射することにより熱転写を行う高精細レーザ熱転写記録を提案し、その記録機構を明確にした。

☆功労賞(第18回) 2件

平倉浩治 (ひらくら こうじ) (元(株)リコー、HiRAK)



受賞理由：「4ドラムタンデム方式デジタルカラーレーザ電子写真システム」の開発などを通じて画像技術に大きな貢献があった。また、日本画像学会理事、会長として長年にわたり指導的立場にあり、学会運営に多大な貢献があった。さらに、日本画像学会年次大会や日本画像学会シンポジウム等での環境保護関係の発表などの啓蒙活動にも多大な貢献があった。

岡 建樹 (おか たてき) (コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株))



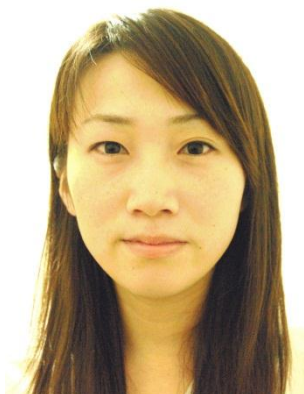
受賞理由：日本画像学会の理事、財務委員長を歴任し、学会の企画運営に貢献した。特に、財務委員長として2008年度以降、減り続ける会費収入やイベント収入の下で、健全な財務状態を維持することに尽力した。あわせて、日本画像学会の法人化に伴う会計制度の変更を円滑に行い、法人化に多大な貢献があった。さらに、第106回日本画像学会年次大会(ICJ2010)の実行副委員長として幹事会社(コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社)、実行委員会において指導的立場にあり、ICJ2010を成功へと導いた。

☆論文賞(第25回) 1件

「好ましい色再現とその評価方法に関する研究」

日本画像学会誌, 第49巻, 第5号, (通巻第187号), pp. 384-390

西浦美都子 (にしうら みつこ) (京セラミタ株式会社)



受賞理由：色再現方法として、原稿に忠実な色再現方法の他に、好ましい色再現方法がある。好ましい色は記憶色と関連していると言われているが、環境や文化によって記憶色は異なる傾向にある。本論文では、世界各国における好ましい色を知るために、千葉大学の小林裕幸教授が提案したサンプル提示法である「系統的配置法」を用いて、好ましい色の評価方法を確立している。各国共通で記憶色を持つような対象物の選定、シーンの特定に配慮した質問方法を考案し、全世界的に調査可能な評価方法を確立している。この評価方法を用いて日本、イタリア、ドイツ、スウェーデン、米国、ブラジルの6か国で、肌色、黄色、緑色、青色を対象に好ましい色を明らかにしている。この結果、好ましい色には地域差があること、「系統的配置法」は色に詳しくない未熟練者を対象とした調査にも適用できることを示している。

☆研究奨励賞(第18回) 2件

由井悠基 (ゆい ゆうき) (横浜国立大学)

「 α -Fe₂O₃半導体のVOC分解への応用と光学・磁気特性」

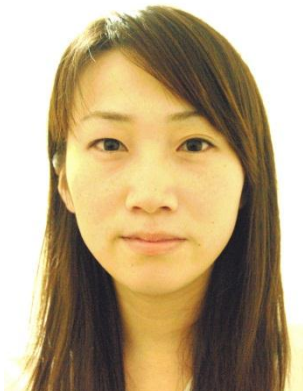
Imaging Conference Japan 2010, pp. 89-92



受賞理由：塗装・印刷産業では、揮発性有機化合物 [VOC (volatile organic compounds)] の大量排出が環境問題となっている。受賞者らは、酸化物半導体の350-500℃において発現する触媒効果に注目し、この効果を利用してVOCを完全分解する試みを展開してきた。本研究では、VOCの分解動作温度を更に下げる目的から、可視域に吸収を持つ赤色顔料の“べんがら” (α -Fe₂O₃) を研究対象としている。“べんがら”の電気的性質から高温で大量の正孔が生成することを明らかにし、VOC分解に有用であることを示している。実証実験では450℃でVOCの完全分解を達成している。

西浦美都子 (にしうら みつこ) (京セラミタ株式会社)

「好ましい色再現とその評価方法に関する研究」
Imaging Conference Japan Fall 2010, pp. 101-104



受賞理由：色再現の方法には、「忠実な色再現」方法の他に「好ましい色再現」方法がある。「好ましい色」は記憶色と関連しているとされ、人種や文化の違いによって異なる傾向になることが知られている。本研究では、千葉大学 小林裕幸教授の新しいサンプル提示法「系統的配置法」を応用して、独自の「好ましい色」の評価方法を確立している。世界各国共通で記憶色を持つような対象物の選定や、シーンの特定に配慮した質問方法を考案し、全世界的に調査可能な評価方法を確立している。

☆会長特賞(第11回) 1件

長山智男 (ながやま のりお) (株式会社 リコー)



受賞理由：長年にわたり、日本画像学会のホームページの充実に貢献し、今日の日本画像学会情報発信の礎を作った。また、日本画像学会年次大会の実行委員として長年にわたり活躍し、学会の発展に貢献した。

☆技術賞(第21回) 2件

技術：「新規EA-Ecoトナーの開発」

富士ゼロックス株式会社

大門克己 (だいもん かつみ)、矢野敏行 (やの としゆき)、

中沢 博 (なかざわ ひろし)、前川佳洋 (まえかわ よしひろ)、

杉崎 裕 (すぎざき ゆたか)

受賞理由：従来のEA (Emulsion Aggregation) トナーよりも定着温度が約20℃低いEA-Ecoトナーを開発している。EA-Ecoトナーは、温度に対してシャープに粘度が変化する特性を持たせることで、低い温度でも粘度が十分低くなり、最低定着温度を従来トナーより約20℃下げることが達成している。これを、新規に開発した温度に対し急峻に溶けるシャープメルトポリエステルと、緩慢に溶けるノーマルポリエステルを独自の乳化凝集の技術によって、トナー内部に最適立体配置させることにより実現している。また、EA-Ecoトナーは、従来のEAトナーと同じように、ワックスを内包する完全なオイルレストナーであり、さらにシャープな溶融特性により、用紙の光沢に追随する光沢再現性を実現している。このように低定着温度と高光沢再現性を両立させたEA-Ecoトナーの使用により、EAトナーに比べ、光沢モードで約40%の消費電力を削減でき、CO₂排出削減に大きく寄与している。EA-Ecoトナーは、すでに700 Digital Color Pressをはじめ12機種に搭載され実用化されている。



大門克己



矢野敏行



中沢 博



前川佳洋



杉崎 裕

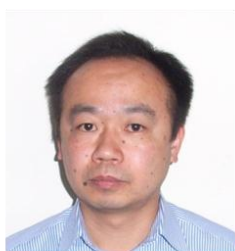
技術：「電子粉流体を用いた高速応答型電子ペーパー「AeroBee」」
ブリヂストン株式会社

田沼逸夫（たぬま いつお）、田村 一（たむら はじめ）、
櫻井 良（さくらい りょう）、大野信吾（おおの しんご）、
増田善友（ますだ よしとも）

受賞理由：電子粉粒体を用いた高速応答型電子ペーパー” AeroBee”はバックライトを使用しない全反射型で、かつ、表示した画像は電源を切っても消えないメモリー性を有する、今までになかった新しいディスプレイである。新規に開発された電子粉粒体は流動性が極めて高く、高速応答性（0.2 msecで白黒の切り替えが可能）を有している。さらに、メモリー性を有することから使用時の消費電力が極めて低い特長を有している。このため、このディスプレイは、広い応用分野、例えば、リテール分野、FA分野、オフィス分野、広告分野ですでに実用化されており、今後とも電子情報分野など紙を大量に消費する分野でディスプレイとして使用でき、電子ペーパー技術に寄与するところ大である。



田沼逸夫



田村 一



櫻井 良



大野信吾



増田善友

☆日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞(第6回) 1件

面谷 信 (おもだに まこと) (東海大学工学部 光・画像工学科 教授)

研究題目: 「読みやすい電子ペーパーを目指す指針に関する研究」



受賞理由: 電子ペーパーの黎明期から先導的な研究を展開しており、新しい電子ペーパーの表示方式の開発研究、「文字や画像が読みやすい」とはどのような因子に基づくかを主観評価により解明する研究に取り組んでいる。これらの研究では電子ペーパーの発展に欠かせない重要な成果が得られている。

☆日本画像学会コニカミノルタ研究賞(第6回) 1件

浅井敏明 (あさい としあき) (株式会社リコー サーマルメディアカンパニー)

「リライタブル熱記録媒体へのレーザ記録 (3) 半導体レーザ記録による耐光性の向上」

Imaging Conference Japan 2010, pp. 223 - 226



受賞理由: リライタブル熱可逆記録媒体は、数百回の記録/消去が可能であることから、環境負荷の少ない記録媒体として注目されている。その中で、ロイコ染料を利用したリライタブル熱記録媒体は視認性には優れるものの、耐光性に弱く屋外では使用できないという課題があった。本研究では、半導体レーザ記録プロセスにより、ロイコ染料の耐光性低下の原因である酸素と紫外線を遮断することができる技術を確認している。これによりロイコ染料を利用したリライタブル熱可逆記録媒体をオープン環境で使用できるようになり、物流分野などに応用用途を広げることが可能にしている。

受賞者リスト



学会賞

1993 井上英一
菊池真一
1994 三川 禮
1995 小門 宏
坂田俊文
1996 河村孝夫
1997 木原信敏
1998 本庄 知
1999 栗田隆治
2000 遠藤一朗
2001 高橋恭介
2002 横山正明
2003 碓井 稔
平倉浩治
村山徹郎
2005 水口 仁
2006 竹内 学
2007 細矢雅弘
2008 半那純一
2009 星野勝義

功労賞

1993 木脇久智
近藤厚實
1994 窪田啓次郎
坂巻資敏
松井 茂
1995 今村舜仁
中村堅一
1996 柿井俊一郎
江田研一
1997 野田栄三
山本 隆
1998 昼間健治
山口隆司
1999 高島祐二
土屋元彦
2000 田嶋紀雄
2001 情野國城
2002 本庄 知
滝口孝一
2003 小口寿彦
2004 大野 信
北村孝司
木村正利
2005 横山正明
鈴木 明
2006 鈴木弘治
高橋 通
星野坦之
2007 中山喜萬
深瀬康司
2008 水口 仁
竹内 学
中村俊治
2009 五十嵐 明
正道寺 勉
富樫光夫

会長特賞

2000 羽根田 哲
2001 情野國城
Min-Kai Tse
2002 安達春夫
2003 平原修三
安達昭三
2004 金 栄順
上原利夫
2005 安藤祐二郎
金 銀慶
2006 稲垣敏彦
緒方信康
2007 武田布千雄
中島淳三
Inan Chen
2008 板谷正彦
2009 木村正利
今井 力

研究奨励賞

1984 武田布千雄
1985 梨木恵一
1986 高橋隆一
1987 笠井利博
1988 小田 元
佐々木幸雄
山本 肇
1989 小寺宏暉
柳田和彦
1990 細矢雅弘
松井乃里恵
山口康浩
1991 面谷 信
田中俊春
弘重祐司
1992 上原康博
松井利一
1993 赤木秀行
園田泰子
堀田吉彦
1994 梅田 実
古川和彦
村井和昌
1995 天野哲也
勝目 正
古谷信正
1996 長山智男
平本昌宏
松本卓士
1997 小谷野 武
平川弘幸
山口幸生

1998 中山信行
李 源涉
1999 久保田哲行
趙 国来
福本 宏
2000 原田陽雄
高橋朋子
2001 金澤祥雄
水口由紀子
2002 平林 純
村本秀也
2003 町田義則
長山智男
大石亮太
2004 中嶋道也
紅林良之
真常 泰
2005 春原聖司
藤本慎也
2006 田中俊介
坂本 祥
2007 大野 玲
長山智男
伊藤めぐ
2008 遠藤 寿
中川靖子
2009 木内豊
井上園美
田中里美

名誉会員

2001 井上英一
近藤厚実
窪田啓次郎
三川 禮
坂田俊文
2002 小門 宏
今村舜二
2003 河村孝夫
江田研一
2004 高橋恭介
2008 横山正明

日本画像学会コミュニケーション研究奨励賞

2005 山口留美子
2006 谷中一寿
2007 水口 仁
2008 渡邊敏行・平田修造
2009 小林範久

日本画像学会コミュニケーション研究賞

2005 藤本慎也
2006 坂本 祥
2007 土井孝次
2008 遠藤 寿
2009 井上 園美



論文賞

- 1977 本庄 知、田口誠一
1981 高橋 通、細野長徳、神辺純一郎、豊野 勉
1983 下木原 滋、加藤義明、板倉良介、横山正明、三川 礼、高島祐二、石田英輔、粒崎 繁、弓場上恵一、
下間 亘
1985 河村尚登、門脇秀次郎、北島信夫
1987 武田布千雄、坂本康治、小林一雄
1989 寺尾和夫、稲葉 繁、伊藤健介
1991 松井乃里恵、岡 孝造、稲葉義弘
1993 細矢雅弘、斎藤三長、佐々木幸雄、木村正利、中島淳三
1994 池側彰仁、後藤 浩、岩佐英二、江ノ口祐次
1995 岩田尚貴、鈴木弘治、西土和宏、沢田 彰
1996 村井和昌、小勝 斉、喜多伸児
1997 本間寿一、横山正明
1998 保坂靖夫、中尾英之
1999 宮坂 徹、山本雅志、島田 昭
2000 水口 仁、遠藤彩映、松本真哉、平林 純、高橋 通
2001 情野國城、弓削静雄、上村正雄、 船山康弘、堀健志、吉井朋幸、上 蘭 勉
2002 渡辺 崇、近内健護、星野坦之
2003 小寺宏暉
2004 水口 仁、今永俊治
2005 真常 泰、八木 均、高橋正樹、石井浩一、高須 勲、細矢雅弘
牧野崇史、井村康朗、日達昭夫、岩田昭平、水口 仁
2006 物部祐亮、山下春生、黒沢俊晴、小寺宏暉
藤山高広、杉本賢一、関口未散
2007 面谷 信、小島 聡
2008 藤本慎也・前田博己・鶴岡美秋・中山健一・横山正明
岡田久雄・竹内 学
2009 情野國城、平原秀明、小沼崇明、吉田一郎、海江田省三
松坂修二、白井聖、細尾康元、安田正俊

技術賞

- 1987 キヤノン(株) OPCと「ジャンピング」現象を用いたカートリッジシステム、ミルカメラ(株)パインダ型小粒径キャリアを用いた現像システム(マイクロエッチング方式)、(株)リコー 高感度積層型OPC感光体の開発
1991 キヤノン(株)帯電ローラ/転写ローラシステムの開発、富士ゼロックス(株)1パス2カラー電子写真プロセス技術、ミルカメラ(株)レーザー強度変調画像再現システムの開発
1992 キヤノン(株)ウェイトレス熱定着システムの開発、富士ゼロックス(株)高画質デジタルカラーセレクトラファイ技術、(株)リコー 4ドラムデジタルカラー電子写真システム
1993 日立工機(株)高速レーザーヘッドプリンク用半導体レーザー光学系の開発、(株)リコー 省スペース高画質デジタルカラーPPCの開発
1994 富士写真フイルム(株)TA方式フルカラーハードコピーシステムの開発、松下電器(株)感光体内部磁石を応用した小型1成分現像方法、(株)リコー 高分子/低分子複合型熱可逆記録材料の開発
1995 セイコーエプソン(株) Mach-Jet技術の開発、富士ゼロックス(株) ハイライトを重視した新規スクリーン技術「HIEST」、ミルカ(株)フックスキャナにおける歪補正技術
1996 アルプス電気(株)高精度600dpi溶融熱転写印刷技術、(株)東芝、(株)テック 一成分非磁性現象を用いたクリーナレスプロセスの開発
1997 富士ゼロックス(株) 高精度マルチカラーレジストレーション技術、日立工機(株)マルチヘッド斜め走査技術による超高速レーザープリンク
1998 沖電気工業(株) 1200 dpi 高発光効率 LED ヘッド、富士ゼロックス(株)高精度カラーマッチング技術(フレキシブルGCR, 3D-ACCT)、山梨電子工業(株)有機感光体の光感度制御技術
1999 キヤノン(株) デジタルフルカラー用重合トナーの実用化、富士ゼロックス(株) Color Laser Wind 3310「カラー高画質化技術」、松下電器産業(株) 消耗品をオールインワンカートリッジ化したカラーレーザープリンク
2000 京セラミタ(株) 電子写真OPC用高性能電子輸送材料の開発、富士ゼロックス(株)高画質フルカラープリンタ・複合機 Docucolor 1250/1255シリーズの開発
2001 沖デジタルイメージング(株) 高速高密度1200dpiLEDプリントヘッド、富士ゼロックス(株)オンデマンドカラープリンティングシステムColorDocuTech60の開発
2002 富士ゼロックス(株) 高画質と低環境負荷を両立する乳化凝集法チナー(EAトナー)の技術開発、(株)リコー 高速カラーレーザープリンタIPSiO Color 8000/8100シリーズの開発、キヤノン(株) 注入帯電クリーナーレスシステム
2003 キヤノン(株) カラーIH(電磁誘導加熱)定着方式の開発、東芝テック(株) 電磁誘導加熱による定着器の開発、京セラミタ(株) 世界最小カラータンデムプリンタFS-5016Nの開発
2004 富士ゼロックス株式会社「面発光VCSELを用いた2400dpiレーザー露光装置の開発」、株式会社リコー「電気二重層キャパシタ補助電源による省エネ定着技術」
2005 富士ゼロックス株式会社「冷却剥離による高面質定着装置MACSの開発」、株式会社東芝「消せるトナー「e-blue™」の開発」
2006 パナソニックコミュニケーションズ株式会社「カラーIH定着器の加熱幅制御技術」、花王株式会社「新規粉砕法による高速高画質オイルレス対応ポリエステルトナー」
2007 京セラミタ株式会社「エコロジー対応A3カラータンデムMFP KM-C4035Eシリーズ機の開発」、株式会社アルバック・コーポレートセンター「独立分散金属ナノ粒子インクを用いたインクジェット印刷による導電膜形成」
2008 富士ゼロックス株式会社「自己走査型LEDを用いた1200dpiLEDカラー複合機の開発」
キヤノン株式会社「透明トナーによる電子写真画像表現多様化への挑戦 imagePRESS C1+」
2009 アルプス電気株式会社「1パスフルカラーダイレクトサーマル記録システム(ZINK)の実用化」





【2010年度選奨委員会委員リスト】

委員長 内藤裕義（大阪府立大学）
委員 中山喜萬学会長、中居仁司運営委員長、竹内達夫編集委員長、面谷 信技術委員長、
阿部隆夫コンファレンス委員長、杉山高司ICJ2010実行委員長、
山崎征人ICJ2010FALL実行委員長、上原康博事業委員長、北岡義隆関西委員長、
岡 建樹財務委員長、半那純一国際交流委員長、長山智男広報委員長、
酒井真理企画委員長